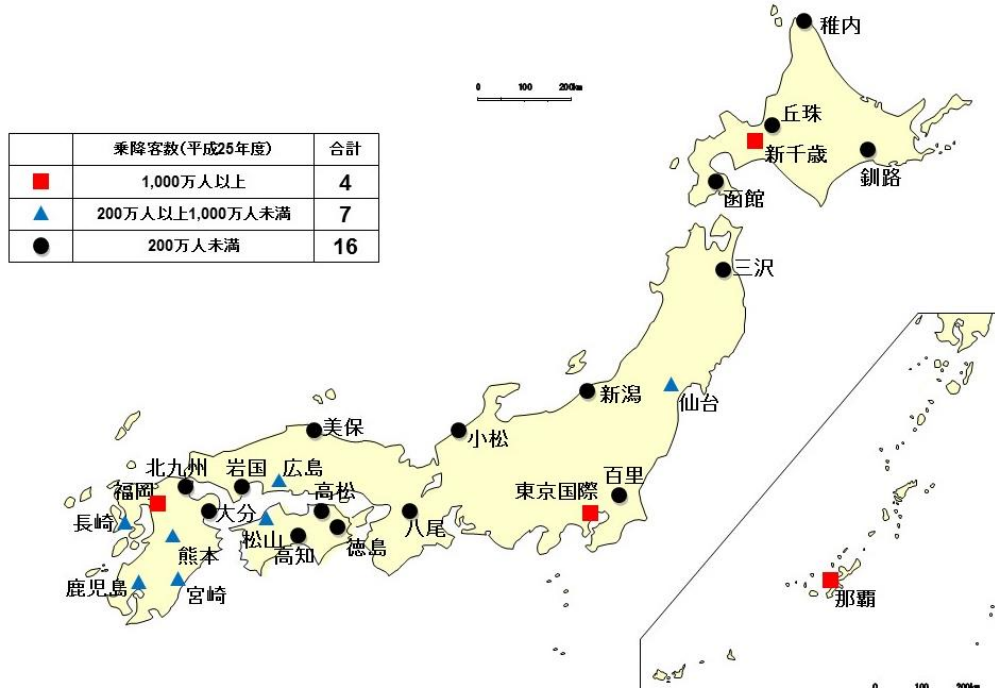


空港別収支の試算結果について

《 平成27年度 》

➤ 対象空港は、国管理27空港。

※千歳飛行場(共用空港)は当該年度中の民航利用がなかったため、対象空港としていない。



➤ 「航空系事業」と『「航空系事業」+「非航空系事業」』それぞれの収支を公表。

・ 国管理空港では、滑走路等(航空系事業)は国が管理運営し、旅客ターミナル等(非航空系事業)は民間が管理運営。

・ 空港別収支では、「航空系事業」、「航空系事業+非航空系事業」それぞれの収支を公表。

➤ 空港別収支については、「損益」、「EBITDA」それぞれを公表。

(参考)空港別収支のEBITDAについて

✓ EBITDA: Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization (利払前税引前償却前営業利益)とは

・ 1年間の営業を通じて得られるキャッシュフロー(実質的な利益水準)を表す、**投資家等が企業分析をする際によく使用されるもののひとつであり、平成23年度に開催された「空港運営のあり方に関する検討会」において経営状態を適切に把握するための資料として提案された指標。**

・ 平成22年度分の空港別収支から「空港運営のあり方に関する検討会」資料のフォローアップとして、継続的に毎年度公表。

✓算出式は、

$$\text{≡ 経常損益} + \text{支払利息} + \text{減価償却費} \quad (\text{※})$$

(※)航空系事業に係る計算にあたっては、空港整備に係る経費を費用及び純粋一般財源も含めた一般会計受入を収益に計上した経常損益を使用。ただし、空港経営の一体化等を見据えた指標として、管理者が国であることに由来しての営業外収益「地方公共団体工事負担金収入」と「一般会計受入」を減算する。

【算出例(鹿児島空港の例)】

✓航空系事業

(空港整備に係る経費を費用及び純粋一般財源も含めた一般会計受入を計上した損益を使用。)

	(単位:百万円)	
経常損益	△121	
減価償却費	649	} 加算
支払利息	0	
地方公共団体工事負担金収入	95	} 減算
一般会計受入	318	
航空系事業のEBITDA	116(百万円)	

✓非航空系事業のEBITDA「経常損益+支払利息+減価償却費」:**894百万円**

「航空系事業+非航空系事業」のEBITDA

$$116(\text{百万円}) + 894(\text{百万円}) = \underline{1,009(\text{百万円})}$$

平成27年度の営業損益及び経常損益について

〈営業損益〉

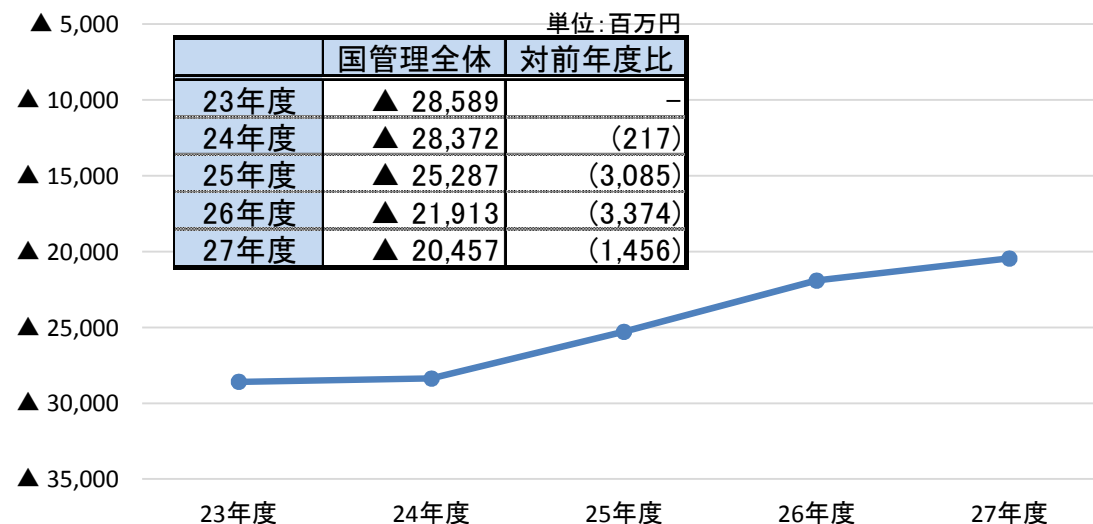
➤ 平成27年度の営業損失は、対前年度比にて約14.6億円の縮小(約▲219.1億円→約▲204.6億円)。

〈経常損益〉

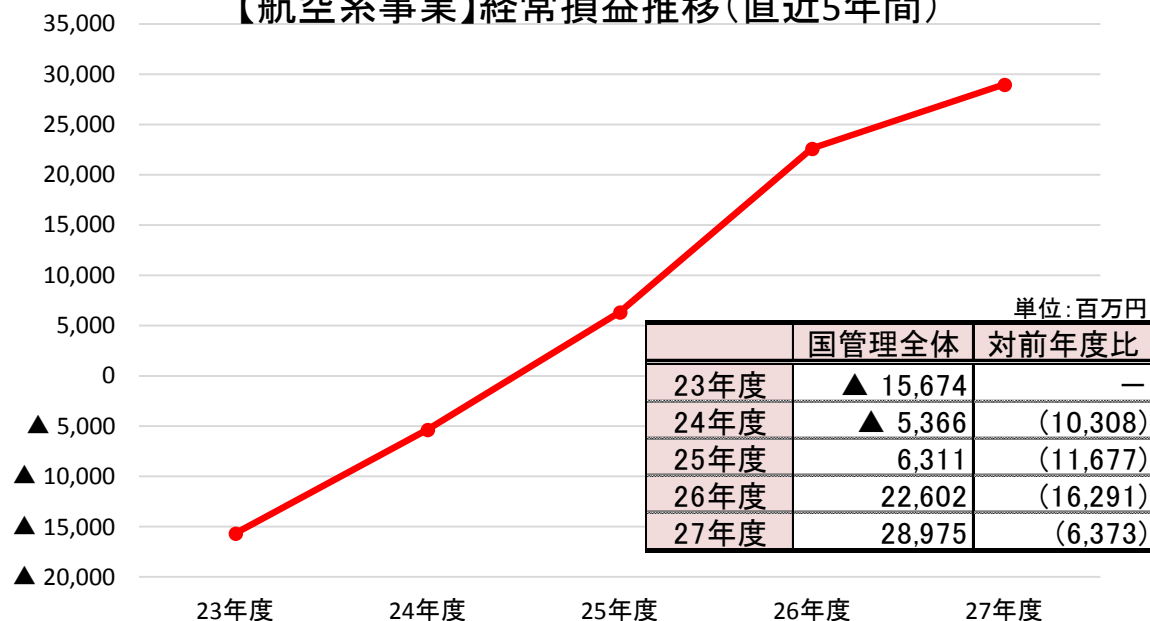
➤ 一般会計受入額などの営業外収益を加えた経常利益は、対前年度比にて約63.7億円の増加(約226.0億円→約289.8億円)。

航空系事業は、那覇空港の滑走路増設に係る費用の増加があるものの、訪日外国人旅行者数の大幅な増加に伴う航空需要の拡大、国際線着陸回数的大幅増(約6.0万回→約7.2万回)及びLCCの新規就航や増便などによる着陸料等収入が増加し、前年度と比べ営業損益・経常損益ともに改善の傾向となった。

【航空系事業】営業損益推移(直近5年間)



【航空系事業】経常損益推移(直近5年間)



平成27年度の営業損益及び経常損益について

〈営業損益〉

➤ 平成27年度の営業利益(※)は、対前年度比にて約**60.7億円の増加**(約321.7億円→約382.4億円)。

➤ 前年度に引き続き、平成27年度も全ての空港で黒字推移

〈経常損益〉

➤ 平成27年度の経常利益(※)は、対前年度比にて約**61.7億円の増加**(約278.3億円→約339.9億円)。

➤ 前年度に引き続き、平成27年度も全ての空港で黒字推移

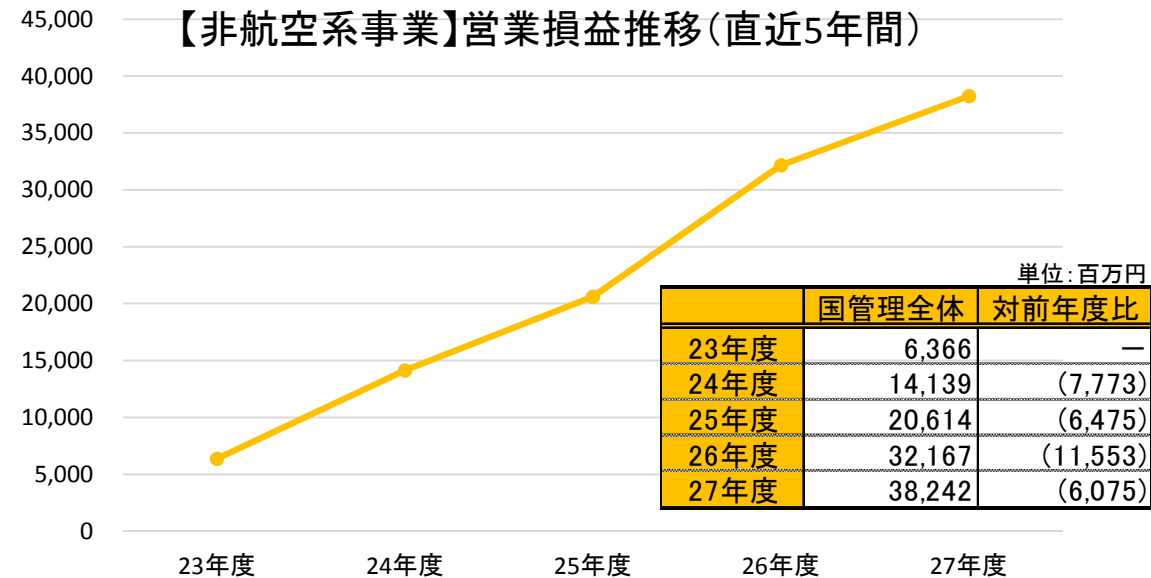
← 国際線乗降客数の増加(約2.0千万人→約2.4千万人)やインバウンド消費の拡大などに伴い、収益が増加傾向。

各事業者の事業報告によると主な要因としては、以下の要因が影響している。

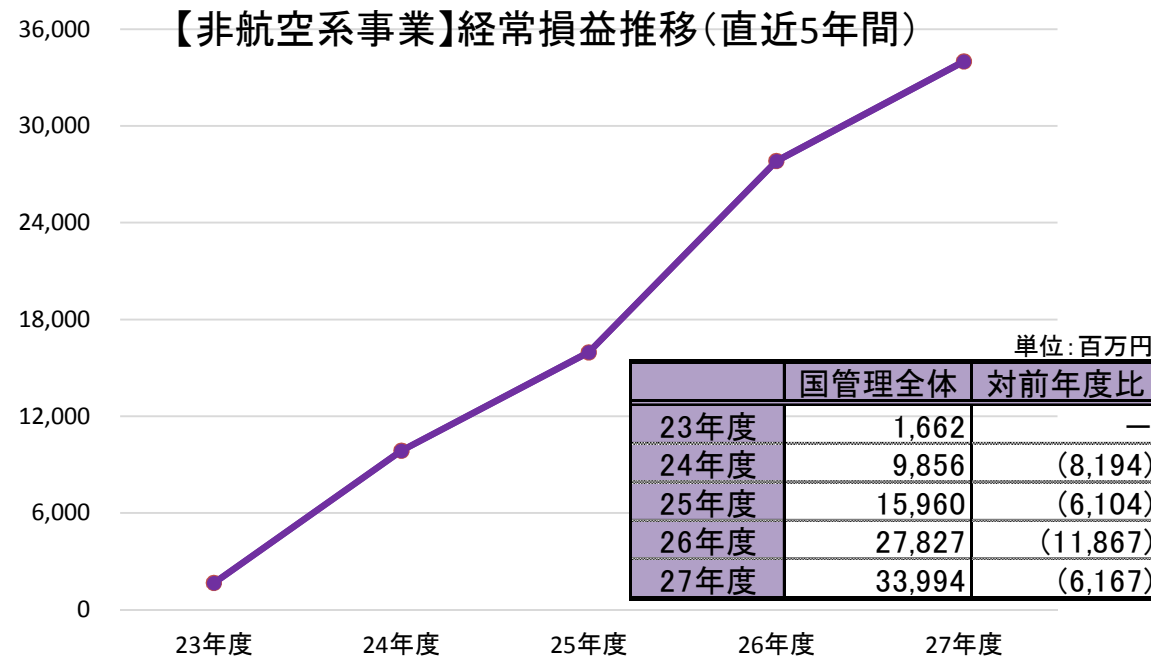
(東京国際) 就航便の増加に伴う旅客の増加に加え、サービス向上及びコスト意識をもった事業遂行による増益
(新千歳) 旅客数の増加などによる商品売上高や賃貸料収入の増加による増益

(那覇) 国際路線の拡充に伴い、国際線旅客ターミナルに係る施設使用料やテナント売上等が好調に推移

【非航空系事業】営業損益推移(直近5年間)

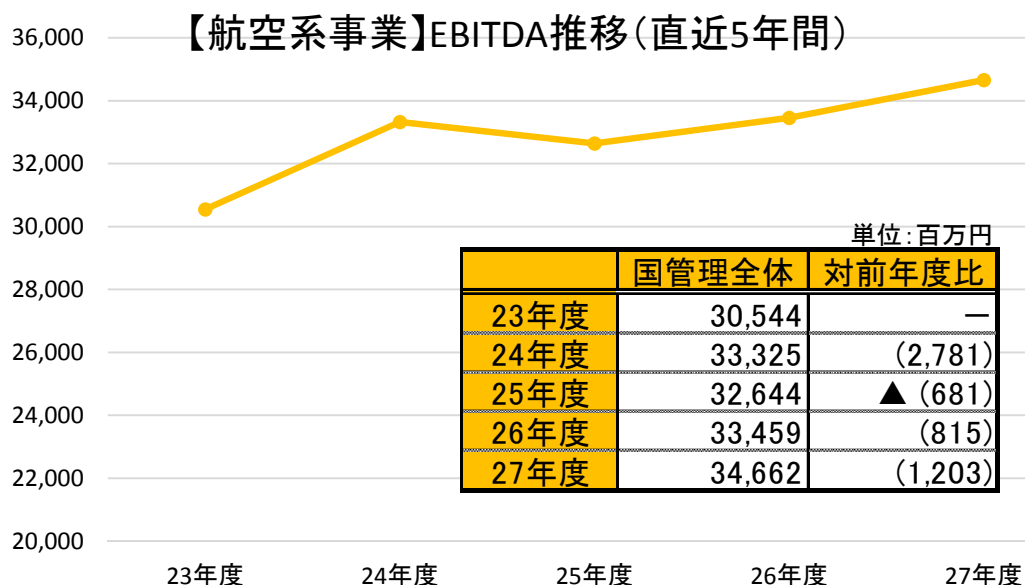


【非航空系事業】経常損益推移(直近5年間)

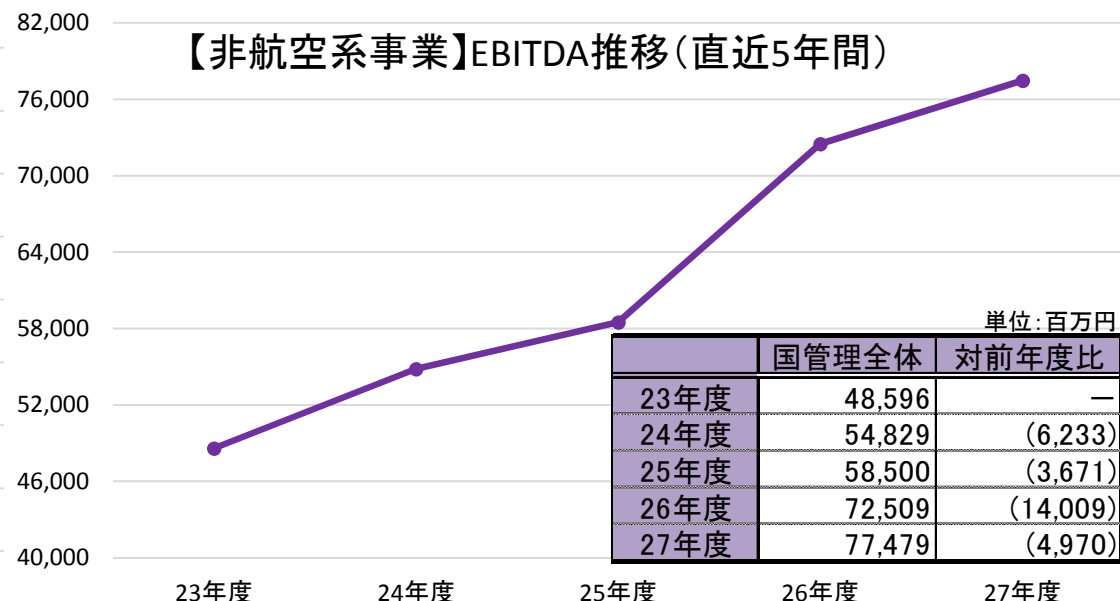


※ 非航空系事業の収支(損益): 空港関連事業(旅客、貨物ターミナルビル事業者及び駐車場事業者)の損益について単純合算したもの。

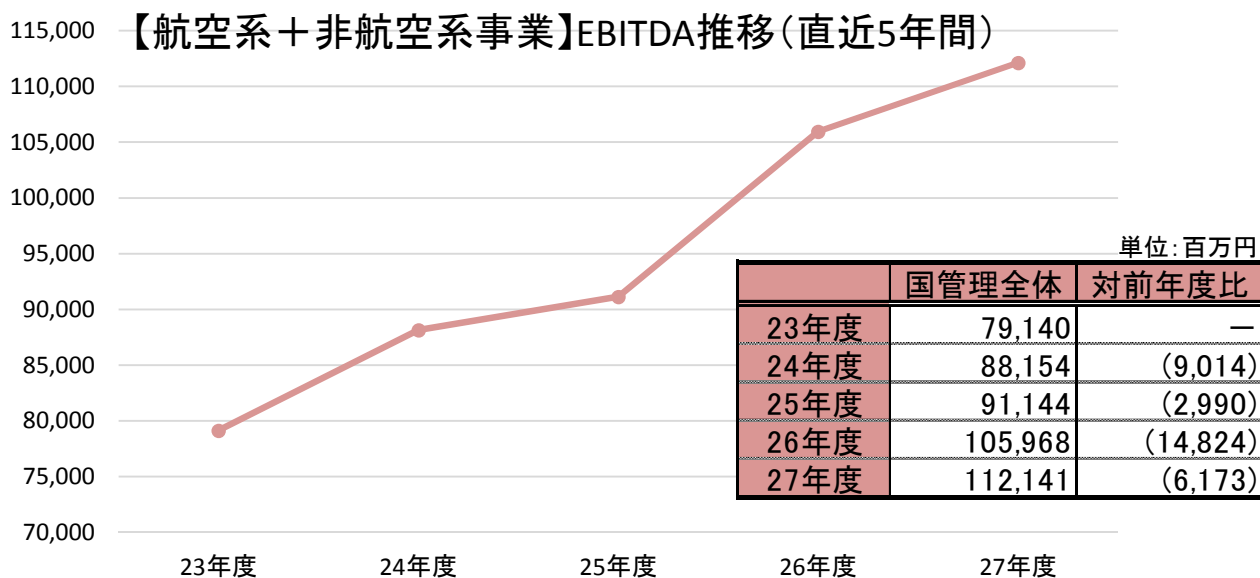
○航空系事業(単独)



○非航空系事業(単独)



○航空＋非航空系事業(合算)



※「EBITDA: Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization(利払前税引前償却前営業利益)≒経常損益＋支払利息＋減価償却費」。

各空港が1年間の営業を通じて得られるキャッシュフロー(実質的な利益水準)を表す指標であり、投資家等が企業分析をする際によく使用されるもののひとつ。

平成23年度に開催された「空港運営のあり方に関する検討会」において経営状態を適切に把握するための資料として提案された指標。

平成27年度 航空系事業の収支(損益) 空港整備に係る経費を費用及び純粹一般財源も含めた一般会計受入を収益に計上した損益

単位:百万円

	営業収益		営業費用		営業損益		経常損益	
	27年度	対前年度比	27年度	対前年度比	27年度	対前年度比	27年度	対前年度比
東京国際	66,333	(2,076)	62,813	(△2,746)	3,520	(4,822)	13,517	(594)
新千歳	10,711	(449)	8,051	(1,170)	2,660	(△722)	5,245	(△965)
福岡	11,625	(△4)	15,740	(735)	△4,115	(△740)	125	(△515)
那覇	4,838	(378)	12,319	(2,349)	△7,481	(△1,971)	15,362	(7,310)
稚内	52	(△1)	921	(△87)	△869	(85)	△616	(146)
釧路	214	(6)	1,295	(5)	△1,081	(1)	△774	(104)
函館	605	(4)	2,148	(△213)	△1,543	(217)	△643	(△11)
仙台	1,083	(△133)	2,824	(299)	△1,741	(△432)	△464	(△292)
新潟	418	(△27)	1,971	(△1,431)	△1,553	(1,405)	△271	(1,486)
広島	1,117	(△17)	1,965	(483)	△848	(△500)	△177	(△353)
高松	710	(△42)	1,092	(△38)	△382	(△3)	△82	(△57)
松山	947	(△24)	1,443	(△76)	△497	(53)	△229	(△309)
高知	444	(△18)	1,390	(156)	△946	(△174)	△515	(△244)
北九州	580	(△41)	1,423	(△181)	△843	(140)	△596	(368)
長崎	1,054	(7)	1,687	(211)	△633	(△204)	492	(△277)
熊本	1,173	(68)	1,820	(197)	△647	(△129)	63	(78)
大分	639	(52)	1,047	(△89)	△408	(142)	△149	(228)
宮崎	964	(14)	1,639	(163)	△675	(△150)	△53	(△259)
鹿児島	1,613	(△77)	2,146	(△146)	△534	(69)	△121	(△479)
八尾	112	(9)	408	(7)	△296	(2)	△288	(△46)
丘珠	24	(△1)	407	(42)	△382	(△43)	△324	(2)
小松	840	(△234)	883	(428)	△43	(△662)	437	(△514)
美保	209	(△99)	301	(△169)	△92	(70)	△91	(65)
徳島	479	(9)	670	(△16)	△191	(25)	△183	(33)
三沢	79	(4)	357	(73)	△278	(△69)	△243	(△36)
百里	183	(△9)	336	(△40)	△153	(31)	△42	(121)
岩国	116	(△15)	521	(△208)	△404	(193)	△404	(193)
合計	107,161	(2,336)	127,618	(880)	△20,457	(1,456)	28,975	(6,373)

「航空系事業＋非航空系事業」の収支(損益)について

平成27年度 「航空系事業＋非航空系事業」の収支(損益)

単位:百万円

	航空系事業				+	非航空系事業				=	航空系事業＋非航空系事業			
	営業収益	営業費用	営業損益	経常損益		売上高	営業費用	営業損益	経常損益		営業収益	営業費用	営業損益	経常損益
東京国際	66,333	62,813	3,520	13,517		263,327	241,445	21,882	18,464		329,660	304,258	25,402	31,981
新千歳	10,711	8,051	2,660	5,245		55,518	51,879	3,640	3,181		66,229	59,930	6,300	8,426
福岡	11,625	15,740	△4,115	125		25,617	21,905	3,713	3,570		37,242	37,645	△403	3,694
那覇	4,838	12,319	△7,481	15,362		10,294	6,197	4,097	3,626		15,133	18,516	△3,383	18,988
稚内	52	921	△869	△616		157	138	19	19		209	1,059	△850	△597
釧路	214	1,295	△1,081	△774		654	464	190	169		868	1,759	△891	△606
函館	605	2,148	△1,543	△643		3,100	2,481	618	585		3,704	4,629	△925	△58
仙台	1,083	2,824	△1,741	△464		2,230	1,588	643	707		3,313	4,412	△1,099	242
新潟	418	1,971	△1,553	△271		1,944	1,742	202	175		2,362	3,713	△1,350	△96
広島	1,117	1,965	△848	△177		2,620	2,144	475	471		3,737	4,109	△372	295
高松	710	1,092	△382	△82		1,281	1,086	194	194		1,991	2,179	△187	112
松山	947	1,443	△497	△229		2,151	1,599	552	605		3,098	3,042	56	376
高知	444	1,390	△946	△515		1,212	1,045	167	177		1,655	2,435	△780	△338
北九州	580	1,423	△843	△596		987	909	78	64		1,567	2,333	△766	△532
長崎	1,054	1,687	△633	492		5,556	5,142	414	433		6,610	6,829	△219	924
熊本	1,173	1,820	△647	63		1,973	1,638	335	432		3,146	3,458	△312	495
大分	639	1,047	△408	△149		2,807	2,613	194	151		3,446	3,660	△214	1
宮崎	964	1,639	△675	△53		4,486	4,125	362	310		5,451	5,764	△313	257
鹿児島	1,613	2,146	△534	△121		2,580	2,351	229	350		4,192	4,497	△305	229
八尾	112	408	△296	△288		0	0	0	0		112	408	△296	△288
丘珠	24	407	△382	△324		200	173	26	27		224	580	△356	△296
小松	840	883	△43	437		2,157	2,087	70	147		2,997	2,970	27	584
美保	209	301	△92	△91		394	337	58	64		603	638	△35	△27
徳島	479	670	△191	△183		720	697	24	17		1,199	1,366	△167	△166
三沢	79	357	△278	△243		201	194	7	12		280	551	△271	△231
百里	183	336	△153	△42		490	471	19	24		673	807	△134	△19
岩国	116	521	△404	△404		249	217	32	23		366	738	△372	△381
合計	107,161	127,618	△20,457	28,975		392,908	354,667	38,242	33,994		500,069	482,285	17,785	62,969

※航空系事業:空港整備に係る経費を費用及び純粋一般財源も含めた一般会計受入を収益に計上した損益

平成27年度 航空系事業の収支(EBITDA)

単位:百万円

空港名	経常損益	加算		減算		EBITDA
		減価償却費	支払利息	地方公共団体 工事負担金収入	一般会計受入	
東京国際	13,517	39,996	7,275	0	17,273	43,516
新千歳	5,245	2,457	0	482	2,103	5,117
福岡	125	1,920	0	1,390	2,850	△2,195
那覇	15,362	2,163	0	1,530	21,313	△5,318
稚内	△616	179	0	48	204	△690
釧路	△774	464	0	58	249	△617
函館	△643	701	0	166	734	△843
仙台	△464	940	0	456	821	△801
新潟	△271	648	0	383	899	△905
広島	△177	462	0	217	454	△386
高松	△82	265	0	82	219	△117
松山	△229	328	0	102	166	△169
高知	△515	305	0	84	348	△642
北九州	△596	508	0	100	148	△336
長崎	492	460	0	250	875	△173
熊本	63	533	0	219	491	△114
大分	△149	190	0	102	157	△218
宮崎	△53	452	0	175	447	△223
鹿児島	△121	649	0	95	318	116
丘珠	△324	66	0	4	54	△317
小松	437	303	0	182	298	260
美保	△91	46	0	0	1	△46
徳島	△183	330	0	0	8	139
三沢	△243	16	0	0	35	△262
百里	△42	152	0	44	67	△1
岩国	△404	291	0	0	0	△113
計						34,662

※注1:「EBITDA: Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization(利払前税引前償却前営業利益)≒経常損益+支払利息+減価償却費」。各空港が1年間の営業を通じて得られるキャッシュフロー(実質的な利益水準)を表す指標であり、投資家等が企業分析をする際によく使用されるもののひとつ。平成23年度に開催された「空港運営のあり方に関する検討会」において経営状態を適切に把握するための資料として提案された指標。

※注2: 航空系事業の収支は、空港整備に係る経費を費用及び純粋一般財源も含めた一般会計受入を収益に計上した損益を基礎として算出し、作成したもの。

※注3: 八尾空港は前年度に引き続き乗降客数がゼロのため、記載していない。

「航空系事業＋非航空系事業」の収支(EBITDA)について

平成27年度 「航空系事業＋非航空系事業」の収支(EBITDA)

単位:百万円

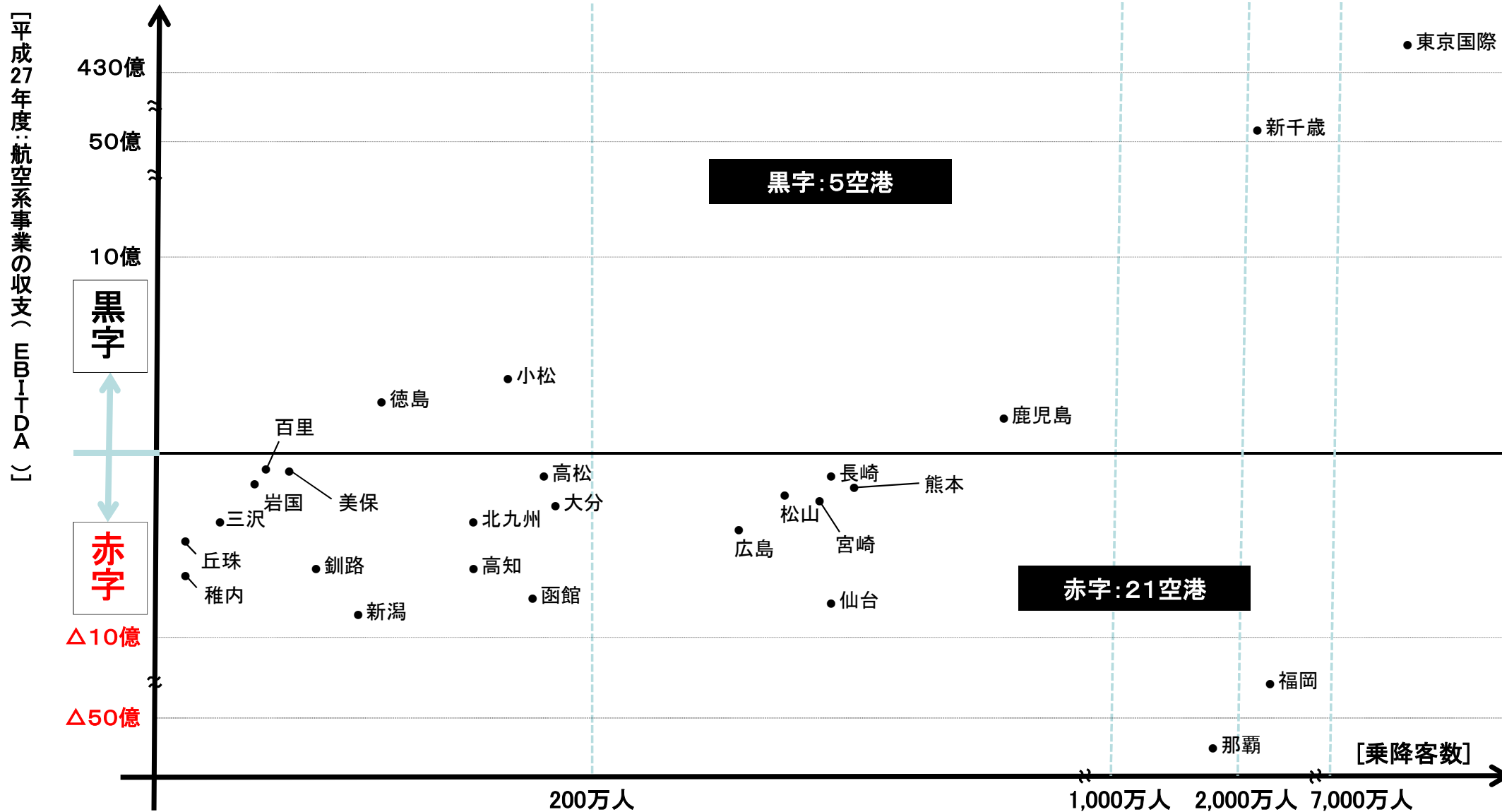
空港名	航空系事業EBITDA	空港名	非航空系事業EBITDA	空港名	航空系事業＋非航空系事業EBITDA
東京国際	43,516	東京国際	45,552	東京国際	89,068
新千歳	5,117	新千歳	9,358	新千歳	14,475
福岡	△2,195	福岡	6,509	福岡	4,313
那覇	△5,318	那覇	5,533	那覇	215
稚内	△690	稚内	52	稚内	△638
釧路	△617	釧路	311	釧路	△306
函館	△843	函館	968	函館	125
仙台	△801	仙台	1,109	仙台	309
新潟	△905	新潟	522	新潟	△383
広島	△386	広島	1,018	広島	633
高松	△117	高松	393	高松	276
松山	△169	松山	874	松山	706
高知	△642	高知	340	高知	△302
北九州	△336	北九州	303	北九州	△33
長崎	△173	長崎	741	長崎	568
熊本	△114	熊本	806	熊本	693
大分	△218	大分	379	大分	160
宮崎	△223	宮崎	695	宮崎	472
鹿児島	116	鹿児島	894	鹿児島	1,009
丘珠	△317	丘珠	56	丘珠	△261
小松	260	小松	434	小松	693
美保	△46	美保	141	美保	95
徳島	139	徳島	180	徳島	318
三沢	△262	三沢	38	三沢	△224
百里	△1	百里	182	百里	182
岩国	△113	岩国	90	岩国	△23
計	34,662	計	77,479	計	112,141

※注1:「EBITDA:Earnings Before Interest,Taxes,Depreciation and Amortization(利払前税引前償却前営業利益)≒経常損益＋支払利息＋減価償却費」。各空港が1年間の営業を通じて得られるキャッシュフロー(実質的な利益水準)を表す指標であり、投資家等が企業分析をする際によく使用されるもののひとつ。平成23年度に開催された「空港運営のあり方に関する検討会」において経営状態を適切に把握するための資料として提案された指標。

※注2:航空系事業の収支は、空港整備に係る経費を費用及び純粋一般財源も含めた一般会計受入を収益に計上した損益に基づき算出し作成したもの。また、非航空系事業の収支は、空港関連事業(旅客、貨物ターミナルビル事業者及び駐車場事業者)の損益を単純合算したものを基礎として算出し作成したもの。

※注3:八尾空港は前年度に引き続き乗降客数がゼロのため、記載していない。

航空系事業の収支(EBITDA)と乗降客数について

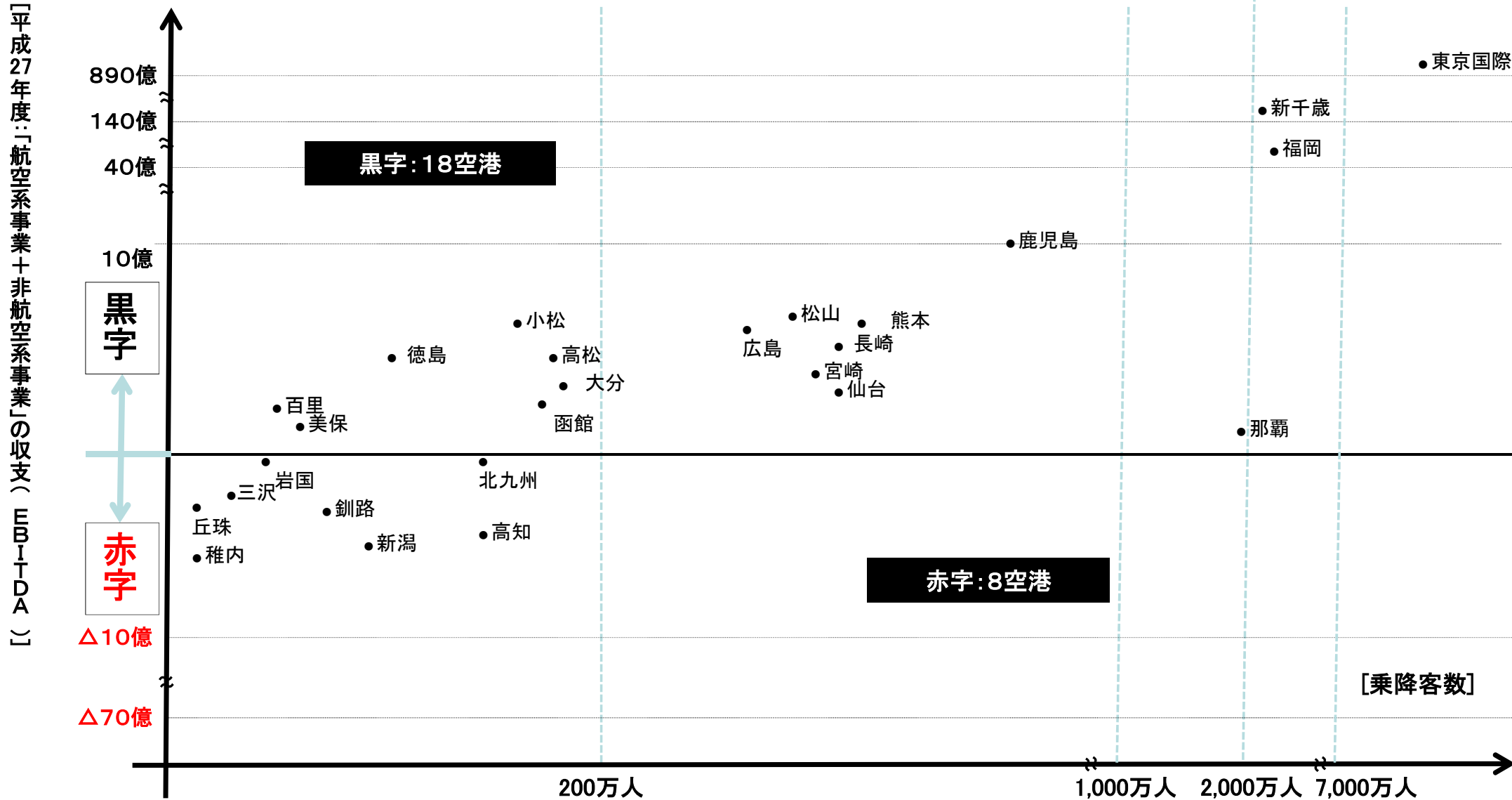


※注1:「EBITDA: Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization(利払前税引前償却前営業利益)＝経常損益＋支払利息＋減価償却費」。各空港が1年間の営業を通じて得られるキャッシュフロー(実質的な利益水準)を表す指標であり、投資家等が企業分析をする際によく使用されるもののひとつ。平成23年度に開催された「空港運営のあり方に関する検討会」において経営状態を適切に把握するための資料として提案された指標。

※注2:航空系事業の収支は、空港整備に係る経費を費用及び純粋一般財源も含めた一般会計受入を収益に計上した損益を基礎として算出し、作成したもの。

※注3:八尾空港は前年度に引き続き乗降客数がゼロのため、記載していない。

「航空系事業＋非航空系事業」の収支（EBITDA）と乗降客数について



※注1:「EBITDA: Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization (利払前税引前償却前営業利益) ≡ 経常損益＋支払利息＋減価償却費」。各空港が1年間の営業を通じて得られるキャッシュフロー(実質的な利益水準)を表す指標であり、投資家等が企業分析をする際によく使用されるもののひとつ。平成23年度に開催された「空港運営のあり方に関する検討会」において経営状態を適切に把握するための資料として提案された指標。

※注2: 航空系事業の収支は、空港整備に係る経費を費用及び純粹一般財源も含めた一般会計受入を収益に計上した損益に基づき算出し作成したもの。また、非航空系事業の収支は、空港関連事業(旅客、貨物ターミナルビル事業者及び駐車場事業者)の損益を単純合算したものを基礎として算出し作成したもの。

※注3: 八尾空港は前年度に引き続き乗降客数がゼロのため、記載していない。